

第3回無担保社債（グリーンボンド） レポートディング

1 調達資金の充当状況

調達額	50億円
充当金額（リファイナンス額）	50億円（50億円）
未充当金額	0億円

カーボンネットゼロに向けた重点取り組みテーマ

	適格クライテリア	充当額 (リファイナンス概算額)
グリーン電力サプライチェーン強化	再生可能エネルギー ・洋上/陸上風力	18億円（18億円）
次世代エネルギー/原料/ CCS・CCUSへの取り組み	SAF (持続可能な航空燃料) 水素及び次世代エネルギー ・合成燃料	32億円（32億円）

第3回無担保社債（グリーンボンド） レポートニング

2 環境改善効果

カーボンネットゼロに向けた重点取り組みテーマ		
	適格クライテリア	レポートニング項目
グリーン電力サプライチェーン強化	再生可能エネルギー ・ 洋上/陸上風力	・ 設備容量：89MW（あぶくま南風力発電所における見込み）
次世代エネルギー/原料/ CCS・CCUSへの取り組み	SAF （持続可能な航空燃料）	・ 供給目標：3万キロリットル/年
	水素及び次世代エネルギー ・ 合成燃料	・ 研究開発段階

再生可能エネルギー

- ・ 洋上/陸上風力

当社グループは風力発電事業を推進する「あぶくま南風力発電合同会社」に出資しております。現在、「あぶくま南風力発電所」は建設中であり、運転開始は2025～26年度を予定しております。競争上の観点から個別のプロジェクトにおけるCO2削減量/削減貢献量の開示は行いませんが、当社全体のCO2削減貢献量は今後も年次でWEBサイト、コスモレポート等で開示していく予定です。

SAF（持続可能な航空燃料）

SAFの原料には、廃食用油、微細藻類、木くず、サトウキビ、古紙などがありますが、当社グループでは廃食用油の活用に取り組んでいます。コスモ石油堺製油所内の製造プラントは2023年5月に着工し、2024年12月25日に完工しました。年間約3万キロリットルを供給目標とし、日本初のSAF量産プラントとして稼働しています。



(SAF製造設備)

第3回無担保社債（グリーンボンド） レポーティング

水素及び次世代エネルギー

・合成燃料

合成燃料とはCO₂と水素を合成して製造した液体燃料となります。原料となるCO₂を大気や製油所の排出ガスを回収して利用するため、燃焼時に従来の化石燃料と同様、CO₂を排出しますが、製造時に回収したCO₂を原料としている為、全体の排出量を相殺することが可能です。合成燃料は、既存の石油製品サプライチェーンを活用かつ、液体燃料の低炭素化を促進する技術であることから脱炭素化社会の実現への期待は大きくなっています。一方で、現状では生産効率やコスト等が課題であり、普及に向けて技術開発に取り組む必要があります。当社グループの研究開発部門では、NEDOの「CO₂排出削減・有効利用実用化技術開発」事業に参画し、各社と連携して社会実装に向けて取り組んでいます。

